

ダイバーと連携して藻場の維持回復を図る

西彼南部地区活動組織

西彼南部（せいひなんぶ）地区について

西彼南部地区は、長崎市南部に位置する香焼町及び伊王島町にあり、五島灘に面す。

当地区は、炭鉱と造船業で発展してきた町である。現在、炭鉱業は社会の変容とともに衰退したが、香焼町は造船業を中心に、伊王島町はリゾート地として県内外から多くの観光客が訪れる町となっている。

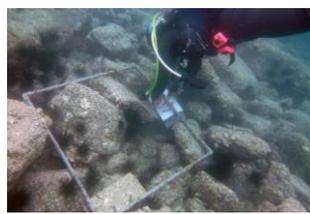
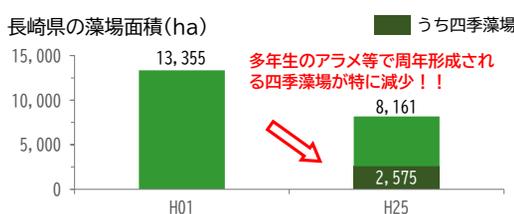


藻場の現況

当地区では、炭鉱業が栄える前から漁業が営まれ、今も刺網や一本釣り、採貝藻を中心に、カマス、ハタ類、イセエビ、アワビ、ウニ、ナマコなどを水揚げしている。また、地先沿岸には、藻場やサンゴの群生地が広がっており、長崎市街地から近いダイビングスポットとしても人気が高い。

しかし、近年、地先沿岸の藻場が減少しており、地区の漁業やダイビング等の観光業に悪影響を与えている。

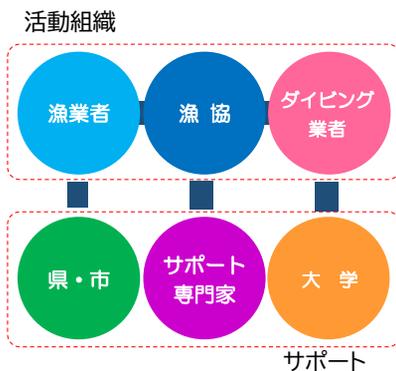
当地区の沿岸には、かつてホンダワラ類で構成されるガラモ場やアラメ・カジメ場が33ha広がっていた。しかし、近年、当地区を含めた長崎県の多くの海域でアラメ・カジメ場が消失した。また、現存していたホンダワラ類やワカメなどで構成された春藻場も、平成20年半ば頃から当地区で減少しはじめ、その対策が喫緊の課題となっている。



組織の設立および活動方針

上記の課題から、当地区の漁業者と長崎市内のダイビング業者が中心となり、平成26年度に「西彼南部地区活動組織」を設立し、藻場の維持回復を目指す活動を開始した。

組織体制は、右図のとおりである。また、藻場の維持回復を図るための活動方針は、下表のとおりとした。



- ① ウニ類の除去**
近年、増加傾向にあるガンガゼ、またムラサキウニやナガウニなどを除去し、春藻場を構成するホンダワラ類やワカメの生育を促進させる。
- ② ウニフェンスの設置（保護区の設定）**
ガンガゼなどのウニ類の除去区域に保護区を設定し、その侵入を防止する施設「ウニフェンス」を設置し、ホンダワラ類やワカメの繁茂を促す。
- ③ 地先海域の魅力と藻場保全に係る啓発**
地元の子どもたちや市内の子どもたちを対象に、地先海域の自然や漁業の魅力を伝え、藻場保全への理解を促し、郷土の自然を愛し・守る心を育成する。

藻場の維持回復とその大切さを伝える

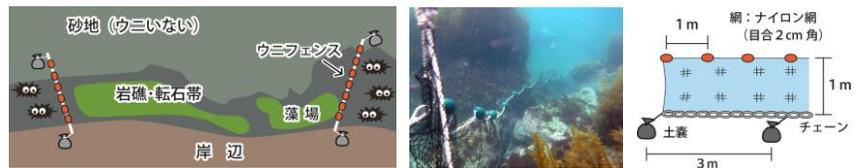
(1) ウニ類の除去

ウニ類の除去は、5月下旬～6月下旬にかけて、延べ約24日間行う。場所は、活動区域内の9箇所の中の2～4箇所で、毎年場所を順次かえ実施する。除去の方法は、漁業者は素潜り、ダイビング業者は主にスクーバ潜水で、自作のウニ潰し棒を用いて行う。1日あたり全員で平均3,000～4,000個/日のウニ類を潰している。



(2) ウニフェンスの設置（保護区の設定）

ウニ類の除去エリアの周りにフェンスを設置し、その侵入を防ぐ。設置は、ウニ類除去活動前に実施。方法は、沖合が砂地でガンガゼなどが分布しないことから、岸から沖方向に瀬切るかたちで網を張る。使用する網は、高さ1m、目合2cm角であり、ナイロン網を活用している。



(3) 地先海域の魅力と藻場保全に係る啓発

地先海域の自然や漁業の魅力を伝え、藻場保全の啓発を図る目的で、学習会を開催している。当地区の香焼町では、地元学童保育の児童を対象に、漁業者とダイビング業者が連携して学習会を行う。一方、伊王島町では、長崎市内の子どもや保護者を対象に、市内にある私立大学と一緒に水中ロボットを用いて体験教室を開催する。



活動の成果と課題

平成26年度から保全活動を進める香焼町地先では、ホンダワラ類を中心とする大型海藻の被度が、年々増加している。一方、平成30年度に活動を開始した伊王島町地先では、被度は未だ小さいが、増加傾向にあり、今後の藻場回復が期待される。

現在、構成員である漁業者が高齢化しており、新たな人員確保が求められる。最近、活動をともに行うダイビング業者の1名が、兼業ではあるが準組合員になってくれた。また、今年度、長崎市でダイビングサークルをつくる大学生がウニ類の除去を手伝ってくれた。こうした人材確保や連携を今後進め、安定した春藻場の回復を目指していきたい。

